第４回千葉県森林審議会森林管理部会概要

１　日　　時　令和５年１０月１６日（月）午前１０時から午前１１時４５分まで

２　場　　所　千葉県庁本庁舎１階　多目的ホール

３　出 席 者　【森林管理部会委員】
部会長　田渕 和正委員
川北 紀子委員、志賀 和人委員、泉水 秀昭委員、松浦 裕子委員
【県職員】
森林課長 佐藤 哲也、副課長 今関 達治
森林経営管理室長 椎名 康一、森林整備班長 宇川 裕一
※以下敬称略
鈴木 明、勝本 慶子、秋山 あゆみ、今永 悠太、瀬川 将太郎、
西村 千尋
【ちば森林づくり計画提言説明者】
株式会社古川ちいきの総合研究所　古川大輔、高田敦紀
フォレスターズ合同会社　小森胤樹

４　議　　題
議案　ちば森林づくり計画（中長期計画）の策定について

５　議事概要（主な質疑・意見）
【志賀委員】
・生物多様性なども含めて検討していくなかで、対象を人工林に限るのはなぜか。
・千葉県はどちらかというと、林野庁の施策そのものではなく、独自の林政を行ってきた部分があると考えるが、ここで林野庁が定める日本型フォレスター制度に中途半端に追従する必要があるのか。
・産業の姿を論じるのであれば、どのような経営単位において経営が成り立つのか、担い手が確保できるのかといった課題を検討する必要がある。経営なのか、保有・管理なのかといった区分を明確にする必要があるのではないか。
・千葉県は里山条例もある中、都市空間の中での森林の位置付けといった観点や、それに対応する施業を柔軟に組み立てていくという観点も必要ではないか。
・シン・リンギョウ、ベッドフォレストという言葉について、社会的、産業的、学術的に通常性のある用語とするべきではないか。
・「新しい監理システム」として、建設業などで用いる監理の「監」を用いているが、不確実性や曖昧性を併せ持つ林業においては、これまで使われてきた森林管理の「管」の方が適しているのではないか。

【事務局回答】
・森林環境譲与税の使途を考える中で、まず取り組むべき対象として、人工林を対象としているものであり、長期計画として生物多様性等を含めて考える中では人工林のみを対象とするものではない。
・森林整備では、森林経営計画に基づいて林業事業体と森林所有者が受委託契約を結ぶまでが一番重要であり、この部分がボトルネックになっている。この部分に対応するため、古川氏からはフォレスターを活用したシステムを提案いただいたが、本当に適用できるかどうかは今後検討していく必要がある。
・経済性の部分については、ベッドフォレストの構築という考え方の中で、資源をストックしながら、来るべき時に備えて木材を売る体制を整えていくということである。まずは、手入れ不足の森林の整備を進めながら、木材利用や産業の構築といった部分も少しずつ見直し行っていくことを考えている。
・都市部の多くの人たちの森林への需要に対しては、安全・安心の林縁管理や生物多様性といった観点をベッドフォレストの構築という形の中で提案を行うこととしている。
・シン・リンギョウ、ベッドフォレストという言葉については、少しでも県民に興味・関心を持ってもらえるのであれば、こういった言葉も良いのではないかと考えている。
・「監理」という言葉については、御意見のとおりのため、再度検討を行いたい。

【志賀委員】
・森林組合や林業事業体で現場作業に従事している方が、主体的に森林管理に参画できる仕組みづくりをお願いしたい。
【事務局回答】
・簡単な話しではないと考えるが、仕組みづくりについては、少し時間をかけながら、色々な方と議論しながら、検討していきたい。

【泉水委員】
・中長期計画の中で、手遅れ林分の整備と台風被害の復旧との住み分けはあるのか。
【事務局回答】
・台風被害の復旧については、第１期の５年間で一区切りとし、その後４万３千ヘクタールある人工林について、ある程度集約化してできるところから整備していくという考えである。

【泉水委員】
・冒頭に花粉対策の話しがあったが、行政として花粉対策メインでやると、森林が育たたないのではないか。
【事務局回答】
・都市部に近いところから重点的に花粉対策を実施するということがニュースにも出ているが、需要があるから木を伐るというのが基本的な考え方である。

【泉水委員】
・生物多様性の副産物として、獣害やヒル、マダニによる被害もある。林業に従事する方が安心して働ける環境づくりというのも考えて頂きたい。
【事務局回答】

・産業として実施する場合、従事者の安全対策は、事業を実施する側がしっかり取り組むというのが基本的な考え方である。
・獣害対策については、林縁等の整備により、イノシシやシカ、サルに警戒心を抱かせるような関係づくりを模索していく必要があるが、森林・林業としては新たな環境を作る一つのツールとして、生物多様性にも取り組んでいかなくてはならないと考えている。

【松浦委員】
・補足資料に載せている林縁管理の資料について、地球守の高田さんのものだと思うが、千葉県はこういった方とのつながりがあるか。
【事務局回答】
・高田造園については存じており、知事も市長時代の台風が起きた際に、昭和の森の公民館でこの方の講演を聞きに行っている。
【松浦委員】
・災害に強い森づくりとして資料を載せているが、森林の土中環境等をひっくるめて環境を考えているので、表面的に広葉樹を植えればいいとか、密植すればいいというものではない。木を伐るだけでなく、トータルで森林を理解する人材の育成が大事ではないかと考える。
【事務局回答】
・県では県民参加の森づくりという考え方もあり、林業の専門家以外にも、プレーパークとか、樹木医とか様々な専門家の方々と交流を行いながら、検討を進めていきたいと考えている。

【田淵議長】
・森林資源の循環を考えたときに、木材の利用という部分についても、もう少し触れていただきたい。
・千葉県森林経営管理協議会などでも、県産材の利用についての提案を行うといった取組をお願いしたい。
【事務局回答】
・ICT 等も活用し、資源量をしっかりと把握しながら、第三次産業ともしっかり協力した形を作っていくことが必要だと考える。